

「味」

株式会社榎戸材木店
会長 榎戸正人

美味しいつまみを食べながら、美味しい酒を飲む。ノンベエには最高の楽しみです。でも、料理やお酒は美味しいことが話題になるのに、なぜタバコは話題にならないのでしょうか？タバコを話題にすることに抵抗があるのかも知れませんが、そもそもタバコを吸わない人にとって、タバコに美味しい、まづいがあることすら知らないし、無関心なのでしょう。

美味しいお酒は一口、口に含んだだけで、ため息が出そうになりますが、美味しいタバコと言うのも一服吸っただけで幸せな気持ちになります。愛煙家はその喜びに魅せられて、タバコを止められないのです。

一方、「味」と言っても味覚によるものばかりではなく、「味のあるタレント」だとか「味のある文章」と言うように、味覚とは関係のない使い方をされることもあります。英語でも「テイスト」というのは様々な場面で使われる言葉なので、日本人独自の感覚ではないようです。「蜜の味(テイスト・オブ・ハニー)」と言う有名な曲がありますが、これも本当に蜜を舐めたわけではなく、蜜のように甘い関係と言う意味です。

木にも味はあります。「木味(きあじ)」と言う言葉は最近聞かれなくなりましたが、色艶や木目の美しさ、肌触りに優れた木材は「木味が良い」として珍重されました。見た目を重視していたからで、桧などは節のない無地の板材よりも、赤みを帯びた大きめの生節が散見される節板の方が高級とされて、料亭などの壁の腰板などに利用されていました。

しかし、木材に求められるものが強度や寸法精度に変わっていき、見た目を重視する木味と言う言葉は死語になりつつあります。大壁工法が主流となり柱が見えない家ばかりになった今、せめて内装材に無垢の木材を使って欲しいと思うのですが、コスト面、張るのに手間が掛かると言ったことから敬遠され、大手住宅メーカーは内装に木を使いたがりません。

さらに家を建てる施主も住宅展示場で壁に木を張った家を見て気にいっても、あれと同じ木目、色合いの木を貼って欲しいと言う始末で、同じものがない天然木材への理解は皆無です。コストが掛かる掛からない以前に、木材への知識に欠けているのです。決して、木材が嫌いと言うわけではないと思うのですが……

たしかに羽目板にしてもフローリングにしても、1枚1枚を大工が張るのでは手間が掛かり、新材や壁紙の方が施工が早く、楽で安いと言うことになります。特に工期をいかに短くするかに重点を置く大手住宅メーカーでは、まず無垢の内装材は使われません。その点、町場の工務店は無垢の内装をウリにしている会社もあり、こちらは有力なお客様です。

このままでは「木味」はタバコの味と同様、世の中から消えてしまうのだろうか……そう思うと、とても寂しい気持ちになります。もっとも、今の当社は木味がどうこう言えるような高級材は扱っていませんが、弁当の販売を始めたので、そちらの「味」にはメチャクチャこだわっていますが。